

事業の背景・目的

チュウヒ、ベッコウトンボをはじめとする湿地・草地の生物多様性の保全に関する持続可能な手法の確立を目指す

響灘ビオトープは工業地帯にありながらも絶滅危惧に指定される複数の生物が生息している。響灘ビオトープの経年における生態系や周辺環境の変化により生態系における質の劣化が懸念される中、チュウヒ、ベッコウトンボをはじめとする湿地・草地の生物多様性の保全に関する持続可能な手法の確立を目指すもの。

具体的には、生物調査を踏まえた湿地・草地の生態系保全と市民参加による生物多様性の保全を推進するための啓発を手法とする。



響灘ビオトープ全景

事業の内容

生物調査を踏まえた湿地・草地の生態系保全と市民参加による生物多様性の保全のための啓発を手法とする

ア 調査事業
【生活行動の把握】
モニタリング調査により、当該地に飛来するチュウヒの生活行動を明らかにし、保全の取り組みに反映させる。



イ 保全事業
【良好な植生管理】
湿地については、ヒメガマの遷移が進み減少するヨシ原の整備(池の中のヒメガマの伐根、高密度化するヨシの伐採、水際のクズ伐採等)を行う。また、チュウヒが小動物を採餌する草地は、セイタカアワダチソウ、クズを除草して小動物が生息しやすいヨシやチガヤへの遷移を進める。

ウ 啓発事業【気づき】
調査、保全、普及など様々な場面での人材を発掘するための啓発を地元Jリーグクラブ「ギラヴァンツ北九州」(オフィシャルクラブマスコットは、ズグロカモメをモデルとしている)と協働し、響灘ビオトープや曾根干潟などを巡って生き物について学ぶスタンプラリーを実施。



得られた成果

ア 調査事業
・前年度の調査でチュウヒの行動圏を観察し、園外の営巣場所をほぼ特定できた。今年度の調査でもそれを裏付ける結果を得た。
・ビオトープ園内がチュウヒの採餌場所の一つであることも再確認できた。

イ 保全事業
・ヨシ原(チュウヒ営巣地)のヒメガマの伐根、高密度化するヨシの伐採、水際のクズ伐採等を行い、湿地を再生した。
・草地は、除草により小動物が生息しやすいヨシやチガヤへの遷移を進めた。
・湿地再生は、ベッコウトンボ繁殖に、草地管理はカヤネズミの繁殖に寄与すると考える。

ウ 啓発事業
・北九州市内で野鳥が見られる施設の協力を得て、5か所のうち3個の野鳥スタンプを集めて賞品に応募できるスタンプラリーを実施。
・北九州市内全児童およびギラヴァンツ北九州のゲームで入場者にスタンプラリーのチラシ兼台紙(データ添付)を配布し、野鳥を通じた生物多様性普及啓発に努めた。